

2017年7月30日

## 福音書からのメッセージ

「天の国は次のようにたとえられる。畑に宝が隠されている。見つけた人は、そのまま隠しておき、喜びながら帰り、持ち物をすっかり売り払って、その畑を買う。

(マタイによる福音書 13章 44節)

まずイエス様は、群衆に語られました。天の国は、からし種に似ている、そして天の国はパン種に似ていると。からし種というのは、とても小さい種です。くしゃみをすれば飛んでいくようなものです。でもそれが蒔かれると、2~3メートルの木になって、その下で鳥が憩うようになります。またパン種、これはパンを発酵させるために小麦粉などにまぜるもの、形状は違いますが、イースト菌を思い浮かべてください。去年の教会キャンプで、手作りパンを作りました。材料にイースト菌を混ぜてコネコネして、袋に入れたまま日向に放置します。すると忘れたころに、袋がパンパンにふくらんでいました。天の国はそういうものだというのです。

どちらも、もともとは小さくわずかなものです。その小さなものが、とてつもない成長をとげる。大量の粉の中に隠されたようなわずかなものが、粉全体を変えていく。天の国とはそういうものなのだと、イエス様は目の前にいる群衆に語ります。あなたがたの心に蒔かれたみ言葉は、今はからし種のように、パン種のように、小さな、わずかな、存在でしかないかもしれない。でも、そのみ言葉は、あなた自身を包み込むほどのものになる。そのみ言葉は、あなたの心の中で絶えずかき混ぜられ、いつしかあなたの心全体はみ言葉で満たされる。その希望を今は信じられないかもしれないけれども、み言葉の種は、確かに蒔かれたのです。

さらに続けてイエス様は家の中に入り、



弟子たちだけに語ります。そこで、隠された宝と良い真珠のたとえを語ります。そこには

こんな言葉がありました。手に入れるために「持ち物をすっかり売り払って、それを買う」。何かすばらしいものを見つけたら、今持っているすべてを手放してでも、それを手に入れるのだと言われています。天の国はそういうものだと、弟子に言われるのです。弟子になるとはどういうことでしょうか。一言でいうと、他のすべてを捨てることだといえるかもしれません。しかしそれはなかなかできないことです。でもこのたとえでは、宝や真珠を見つけた人は、「持ち物をすっかり売り払って、それを買う」のです。その素晴らしいものに出会った瞬間、価値観がまったく変わり、今まで固執したものがどうでもよいものとなるのです。これが本当の、「捨てる」ということなのです。

群衆には、天の国の出来事とは今は小さくても、必ず大きくなるという希望を語りました。そして弟子たちには、あなたたちに与えられた喜びは、ほかのものとは比べものにはならないほど価値のあることだと告げられました。イエス様はわたしたちの心の中を、すべてご存じです。イエス様は聞く人にあわせて、今、必要なみ言葉を語られるのです。今あなたの心には、どのみ言葉が響いているのでしょうか。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>